

インターバンクの声（2016年12月14日）

週初12日(月)の東京時間の夕方に116円10銭台を付けた円相場だが、それ以降はドルの上値が重くなっている。昨日は東京の朝方に114円70銭台までドル売りが進み、その後、徐々にドルが強含んだものの、ロンドン、ニューヨーク市場でも115円台半ばを越えずにいる。明日の東京時間早朝に米連邦公開市場委員会(FOMC)の政策決定の結果が出るが、1年ぶりの利上げは確実視されており、市場はもっぱら来年以降の利上げのペースや上げ幅に関するヒントを掴みたいようだ。

FOMC参加メンバーの金利や景気見通しが9月から大きく上方修正されるようであれば12日に付けたドルの高値を更新する可能性も高いが、変化が見られない場合の反応は予想しにくい。FOMCを前にして原油価格や米長期金利に大きな変化は見られなかったが、ニューヨーク・ダウは史上最高値を7営業日連続で更新している。米連邦準備制度理事会(FRB)の来年の利上げ回数が複数回になるとのヒントが示されれば、為替にも影響してくるので気を付けたい。ただドルが下がってくれば買いたい人は多いようだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。